

縮景園

静かで趣ある日本庭園の縮景園が最初に造られたのは、1620年です。この地域を300年以上統治した浅野家が、名高い茶人であった武士の上田宗箇（1563年～1650年）に、現在の広島野球スタジアムほどの広さのスペースに山や川の景色を入れた「景色を縮小させた庭（「縮景園」の名称の意味）」を設計するように依頼しました。

人工でありながら完璧に天然のように見える池が縮景園の中央を広く占めており、アーチ型の石橋を渡ってその池を横断することができます。大きさがさまざまな14の島が橋の両側にそれぞれ7つずつ点在していますが、これは瀬戸内海の島を表しています。カラフルで大胆な模様をした鯉が、ここは人がよく餌を水のなかに投げ入れてくれるところだと知って橋のそばまで大量に集まってきます。亀が鯉のそばでゆったりと泳いだり時折乾いた陸地へと上がってみたりしています。ちょこちょこ歩き回る蟹も見られ、さまざまな種類の鳥たちにはここに棲みついているものも季節の渡り鳥もいます。

庭園には、谷、橋、茶室、あずまやなど、訪れた人々が楽しめる景色が優雅に配置してあります。縮景園をめぐる通路の見どころには、小さな竹藪や梅園などもあります。

縮景園は原爆で激しい損傷を受けました。石橋以外の建造物はすべて破壊され、生き残ったのは3本の木だけでした。茅葺屋根の茶室である明月亭を含むすべての建物は、戦後に建て直されたものです。